

# 道と橋を学べるイベント 兵庫県川西市土木部道路整備課が開催

## インフラ包括管理の導入検討調査 エイト日本技術開発を選定

兵庫県川西市土木部道路整備課は1月12日、東谷公民館(川西市見野)で「道と橋を学べるイベント」を開催した。同市は国土交通省の「令和6年度先導的官民連携支援事業」に採択された事業の一環として、「ニュータウンの課題解決を目指すインフラ包括管理の導入検討調査」を実施。この調査において公募型プロポーザル方式の入札でエイト日本技術開発を選定し、市民に社会インフラの維持管理の重要性を伝えるため、同社と共同で同イベントを開催した。



強度試験の様子

「道と橋を学べるイベント」には市内北部の3つの小学校を対象に参加者を募集し、抽選の結果、21組(子ども25人、保護者25人)が参加した。当日は、まず、川西市ポトルを利用した強度試

### 中津留課長 次世代を担う子どもたちへ

### 「原体験で土木を楽しんでほしい」

川西市土木部道路整備課の中津留幸紀課長は、インフラ包括管理導入検討調査の目的について



中津留課長

「川西市は昭和40年代以降、民間開発事業者に施設建設費用の一部を負担してもらった『川西方式』により、人口1万人規模の戸建住宅地が各地に開発された。本市では現在、年間2200件を超える道路に関する苦情が寄せられる中、ニュータ

ウンのインフラも老朽化が進んでおり、限られた予算と人員で効率的な維持管理を行うことが大きな課題となっている。そのため、包括管理の導入可能性について調査を行っている」と述べた。

また、「次世代を担う子どもたちに土木に触れ、原体験として楽しんでほしい」という思いがあり、公共交通担当として市内全ての小学校で、「ふるさと川西市を愛して公共交通まっすぐりをしっかり考え行動しよう」というMM教育に取組んできた。「道路の維持管理にもびったりだと感じ、今企画に繋が



座学の様子



簡易模型作り

った」と説明した。さらに、「強度試験で、自分たちが作った橋を見守る中、全ての橋が無

事に耐えることが示され、参加者全員が喜びの表情を見せた。また、路面補修の実演では、子どもたちが初めて見る作業に興味津々で、常温合材を使ってポットホルルの補修を楽しく行うという「振り返り、解散時に子どもたち一人ひとりが笑顔で『ありがとう』と言われたことは感慨深い。今後、機会があればこのような活動を継続して実施したいと考えている」と話した。

### 川西市の特性を反映

橋梁点検、補修設計など  
今回、エイト日本技術「入可能性調査、②橋梁定期点検(6橋)、③橋梁

の業務から成り立っており、①に向けた実証を行い、川西市の特性を反映させたインフラ包括管理の可能性について検討している。